2016年度秋学期
授　業　評　価　報　告

科目区分名	医療薬学科　　科　目

【アンケート結果について】実施対象教員 41 名中 41 名が実施し，教員実施率は 100%であった．また，実施対象 87 クラス中実施クラスは 86 クラスであり，クラス実施率は 95.3%であった．全学の平均クラス実施率が 93%であり，全学平均よりも高く、医療薬学科教員のアンケートを実施することに対する姿勢は他学部よりも協力的であったと考えられる．一方で、回答率は全学平均が 82.7%であるのに対し，医療薬学科科目では 74.7%と約 10%低い値であった．この現象は、医療薬学科では毎年続いており、アンケート用紙を配布しても何も書かないで提出する学生が約 15%、アンケート実施時に欠席して用紙を受け取っていないが約 10%存在することにある．アンケートを受け取っても答えない学生の意見を調査したところ、「何度も同じアンケートでうんざり」、「答えてもどうなるわけでもない無い質問ばかり」、「アンケートなので答えるか答えないか自由だ」という意見が大半を占める．医療薬学科科目は、文部科学省の「薬学教育モデルコアカリキュラム」に準拠しており、科目数は多いと共に全てが必須であるため時間割が過密状態であり、アンケート実施が一定期間に集中する現状が、アンケートに対して「うんざり感」を与えている．しかし、アンケートの運用や質問の内容を考慮することなく 100%の回収率を目指すことに何の意味があるのかははなはだ疑問であり、75%の回収率でも統計学上は十分であると判断する．【設問別集計結果について】Q4（授業外学習時間）及び Q6（授業のレベル）は全学平均より上回ったが，他の設問では低い結果となった．この現象は毎回のことではあるが、低迷する要因として，薬学教育カリキュラムの特殊性に基づくものである．すなわち、医療薬学科科目は文部科学省の薬学教育モデル・コアカリキュラムと国家試験出題基準に準拠して組み立てられているので、講義は必然的にこれらに合わせざるを得ず、学生は興味の有無に関わらず開講されている講義を全て履修しなければならず、科目によっては着いて来れない学生の定評が見受けられる．Q4（授業外学習時間）は特に CBT を受験する 4 年次生、国家試験受験を迎えた 6 年次生で突出しているが、この突出が平均学習時間を押し上げている．しかし、各学年、満遍なく学習時間数を取れるように指導していくのが望ましい姿であり、また、教員はそのように誘導する授業を工夫すべきでもある．また、Q6（授業のレベル）は全学の中で最も高くなっているが、一定割合の学生は講義についていけないのが現状で、そのような学生の意見が Q1（授業理解度）のスコアの全学平均値よりも下回らせる結果となっている．かといって、国家試験を目標とすると、全てを成績下位者に合わせてしまうことは出来ない．さらに、Q１（授業理解度）について言及すれば、医療薬学科科目以外に看護学科科目、食物科学専攻科目、管理栄養士専攻科目、食物科学専攻科目においても平均より Q1 スコアが下回っていることから、授業の理解度は本学の医療系特有の現象と判断でき、全体のスコアと比較すべきものでもない．Q2（意欲）、Q3（知的好奇心）及び Q5（授業の工夫）のスコアについては、好む好まざるに関わらず必要事項を学習して習得しなければならないという状況に対する感情の現れであるので、これらを授業評価に結びつけることは如何ともし難い．【DWCLA10 の結果について】医療薬学科科目は、基本事項を学修し、それを応用できるように繰り返し学修する必要があるものがほとんどなので、「分析力」と「思考力」のみが突出して高いという結果に反映されている．すなわち、履修する基礎科目には「リーダーシップ」、「コミュニケーション力」、「自己実現力」などを直接話題として取り上げ討議する性質の科目はおかれていないので、その中で学生が答えたスコアがどのような意味を持つかについては言及の仕様がない．しかし、医療薬学科だけではなく全学的に学生の「無関心平凡主義」が浮き彫りとなっているとは分析できる．医療職にとって「無関心」の発想は弊害であるので、これらの素養を育むための取り組み、例えばボランティア活動の奨励などを取り入れる必要があろう．【今後の改善について】現行の全科目調査では、科目の内容が文科系と理科系、あるいは、臨床系と非臨床系とではカテゴリー、質、量などの面において明確に異なるので、全学の平均に対する比較は、何を見ているのかわからず、コメントのし様がないと言うのが正直なところである．また、薬学部全教員が参加する実務実習事前学習や、実習科目、性質の全く異なる薬学研究に対して同じ質問をし、平均値をと取って比較するのもナンセンスである．教員の教え方を向上させるための調査と思うので、全調査をする必要もましてや教員自身がアンケートをとる必要も無く、教務課の方で各教員の対象科目を設定して少数標本をとり、しかるべき調査項目によりアンケートを履修生に対して実施し、改善が必要と判断すれば各教員に改善点を通知する仕組みに変えていくべきである．また、薬学部教員の話し方についての低評価は真摯に受け止め、教え方に対する薬学ＦＤを定期的に実施して改善をして行く考えである．

教育開発支援センター